

令和元年度 文教委員会資料②

【陳情の審査】

陳情第2号 障害者スポーツ文化施設等建設に関する陳情

資料1 障害者スポーツの現状等について

市 民 文 化 局

(令和元年7月25日)

1 本市における障害児・者の現状

各障害者の年齢別内訳（平成31年3月末現在）

身体障害児（者） 37,329人	知的障害児者（者） 10,529人	精神障害者 12,907人
65歳以上 25,498人(68.3%)	65歳以上 418人(4.0%)	65歳以上 1,915人(14.8%)
18歳～64歳 10,933人(29.3%)	18歳～64歳 6,629人(63.0%)	18～64歳 10,813人(83.8%)
18歳未満 898人(2.4%)	18歳未満 3,482人(33.0%)	18歳未満 179人(1.4%)

身体障害児・者数（障害種類別）

区分	視覚障害	聴覚等障害	音声等障害	肢体不自由	内部障害	総数
18歳未満	40	117	5	544	192	898
18～64歳	690	854	163	5,851	3,375	10,933
65歳以上	1,484	2,323	297	12,242	9,152	25,498
総数	2,214	3,294	465	18,637	12,719	37,329
構成比(%)	5.9	8.8	1.3	49.9	34.1	100.0

※肢体不自由の方が全体の約5割で最も多く、次いで内部障害、聴覚等障害、視覚障害、音声等障害の順となっている。

知的障害児・者（等級別）

区分	A1（最重度）	A2（重度）	B1（中度）	B2（軽度）	総数
18歳未満	394	520	595	1,973	3,482
18～64歳	1,325	1,292	1,582	2,430	6,629
65歳以上	60	147	146	65	418
総数	1,779	1,959	2,323	4,468	10,529
構成比(%)	16.9	18.6	22.1	42.4	100.0

※B2（軽度）の方が4割と最も多く、次いでB1（中度）、A2（重度）、A1（最重度）の順となっている。

精神障害者保健福祉手帳所持者数（等級別）

区分	1級	2級	3級	総数
18歳未満	11	102	66	179
18～64歳	585	5,953	4,275	10,813
65歳以上	394	1,087	434	1,915
総数	990	7,142	4,775	12,907
構成比(%)	7.7	55.3	37.0	100.0

※2級の方が5割と最も多く、次いで3級、1級の順となっている。

2 本市における障害児・者の週1回以上のスポーツ実施率

区分	年齢	合計（人）	週1回以上	割合（%）
身体障害児（者）	65歳以上	569	146	25.7
	19歳～64歳	754	204	27.1
	18歳以下	116	68	58.6
知的障害児（者）	50歳以上	75	19	25.3
	19歳～49歳	369	106	28.7
	18歳以下	249	195	78.3
精神障害者	65歳以上	110	22	20.0
	30歳～64歳	591	176	29.8
	30歳未満	83	34	41.0

出典：川崎市健康福祉局「障害のある方の生活ニーズ調査報告書（平成29年2月調査実施）」

○ 実施率は、身体障害・知的障害は18歳以下が高く、精神障害は30歳未満が高くなっている。

3 障害者のスポーツ機会拡充に向けた取組

する

(1) 川崎市障害者スポーツ大会

6種目（アーチェリー、水泳、陸上、卓球、フライングディスク、ボウリング）の大会を開催。大会記録が全国障害者スポーツ大会出場選手の選考の基準となります。



1. アーチェリー
会場 カルッツかわさき



2. 水泳
会場 多摩スポーツセンター



3. 陸上
会場 等々力陸上競技場



4. 卓球
会場 幸スポーツセンター



5. フライングディスク
会場 県立中原養護学校



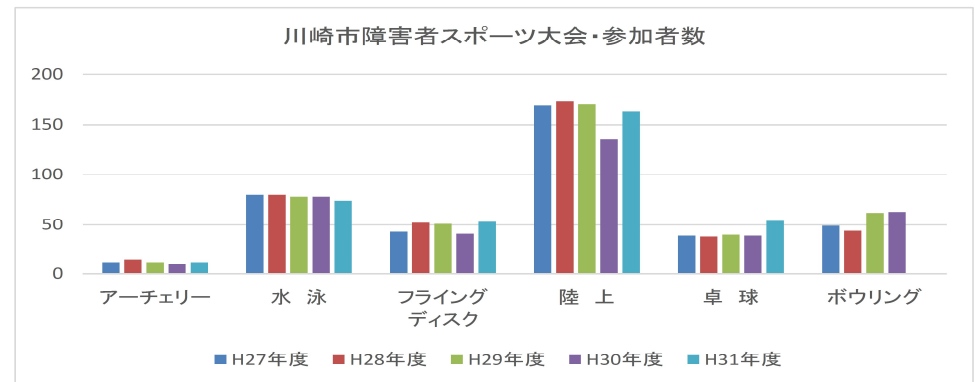
6. ボウリング
会場 川崎グランドボウル



全国大会に出場した川崎市選手団

(2) 第19回全国障害者スポーツ大会（令和元年度は茨城県で10月12～14日に開催）

川崎市選手団は、5種目30名の選手（身体障害部門13名、知的障害者部門16名、精神障害者部門1名）を派遣します。今年度から卓球に精神障害者部門が追加されました。



- ・アーチェリーは、肢体不自由、聴覚障害者の参加が多くなっています。弓・矢が安価ではないため、新たな競技者が増えない状況であり、参加者が高齢・固定化しています。
- ・水泳は、身体障害者と知的・精神障害の部に分かれて実施しています。知的障害者の参加者が最も多くなっています。
- ・フライングディスクは、参加しやすい競技種目で身体障害者の肢体不自由と知的障害の参加が多く、オープン参加になりますが13歳未満もいます。
- ・陸上は、参加者が一番多い競技種目で、どの障害区分からも参加者がいますが、知的障害者が最も多く、次に肢体不自由の参加が多くなっています。
- ・卓球は、肢体不自由の参加者が最も多く、次いで知的障害のB2（軽度）の参加者が多くなっています。今年度開催の全国障害者スポーツ大会茨城大会から精神障害者の参加区分ができました。
- ・ボウリングは、身体障害者の肢体不自由と知的障害のB1（中度）、B2（軽度）の参加が多くなっています。

(3) 障害者スポーツデー

障害者や介助者等に各区スポーツセンターで対応できる障害者スポーツを楽しんでもらう事業。

平成30年度は、実施回数を増やすとともに、ニーズが高かったボッチャ・卓球・卓球バレーを重点的に実施しました。令和元年度も同様の内容で実施します。

平成30年度 障害者スポーツデー実施結果

No.	日程	会場	競技種目	参加者	スタッフ
1	7月14日(土)	多摩スポーツセンター	水泳	3	8
2	7月28日(土)	多摩スポーツセンター	水泳	6	7
3	8月18日(土)	多摩スポーツセンター	水泳	11	7
4	8月25日(土)	多摩スポーツセンター	水泳	10	8
5	9月2日(日)	高津スポーツセンター	ボッチャ・卓球・卓球バレー	15	16
6	9月16日(日)	カルッツかわさき	ボッチャ・卓球・卓球バレー	20	14
7	10月6日(土)	幸スポーツセンター	ボッチャ・卓球	20	12
8	10月20日(土)	宮前スポーツセンター	ボッチャ・卓球バレー	2	7
9	11月3日(土)	麻生スポーツセンター	ボッチャ・卓球バレー	8	15
10	11月25日(日)	カルッツかわさき	ボッチャ・卓球・卓球バレー	100	18
11	12月1日(土)	宮前スポーツセンター	ボッチャ・卓球バレー	22	11
12	12月16日(日)	高津スポーツセンター	ボッチャ・卓球	8	13
13	1月19日(土)	麻生スポーツセンター	ボッチャ・卓球バレー	23	9
14	2月2日(土)	幸スポーツセンター	ボッチャ・卓球	60	12
	合計			308	157

4 主な屋内スポーツ施設の利用状況

(1) 個人・団体利用者数

平成29年度 市内屋内スポーツ施設 障害者利用者数一覧

施設名	利用者総数 (A+B)	個人利用者総数 (A)	団体利用者総数 (B)	(うち) 障害者						
				利用合計	個人利用人数	内訳			団体利用件数	団体利用人数
						トレーニング室	スポーツデー	プールサウナ 体力測定		
カルッツかわさき	181,019	53,283	127,736	1,532	706	706			4	826
幸スポーツセンター	306,845	140,749	166,096	3,833	3,667	3,667			5	166
とどろきアリーナ	995,452	196,384	799,068	17,202	10,802	4,393	4,594	1,815	7	6,400
高津スポーツセンター	326,691	160,759	165,932	968	968	637	331		0	0
宮前スポーツセンター	315,414	136,060	179,354	1,696	1,639	1,325	314		7	57
多摩スポーツセンター	466,535	243,933	222,602	5,812	5,791	5,791			3	21
麻生スポーツセンター	276,809	141,802	135,007	2,838	2,838	2,838			0	0
合計	2,868,765	1,072,970	1,795,795	33,881	26,411				26	7,470

参考(平成29年度)

施設名	利用者総数 (障害者利用者数+引継ぎ者数)	障害者利用者数	内訳	
			体育館	プール
リハビリテーション福祉センター (体育館・プール)	10,387	7,410	6,280	1,130

市民プラザ (体育施設)	利用者総数	障害者利用者数	内訳	
			トレ室	体育館
	185,931	5,431	1,911	3,465

(2) スポーツセンターにおける施設環境の整備状況

- 川崎市福祉のまちづくり条例に基づき、現地調査を行い平成28年度から3カ年計画でバリアフリー工事を実施しました。
- 幸、高津、麻生の各スポーツセンター大体育室への空調設備導入に向けた調査を実施しています。
- 車いす卓球台を全館への配置や、ボッチャ用具を購入するなど障害者スポーツ用具の充実を図っています。
- 平成28年度から初級障害者スポーツ指導員養成講習会にスタッフが受講しています。

5 全国レベルの障害者スポーツの観戦機会の充実 観る

障害者スポーツの魅力をより多くの市民に知ってもらうため、全国規模の障害者スポーツ大会を誘致しており、観戦機会を提供しています。今後も継続して開催していきます。

- (1) 第17回USFデフリーグ (デフサッカー)
- (2) 第8回日本アンパティサッカー選手権大会2018
- (3) ブラインドサッカークラブチーム選手権大会2019
- (4) 第20回デフバレーボールカップ川崎大会



6 障害者スポーツ活動を支える指導者の育成 支える

(1) 初級障害者スポーツ指導員養成講習会

障害者スポーツの普及に向けて、市障害者スポーツ協会や市障がい者スポーツ指導者協議会等と連携し開催しています。平成30年度から、一般対象の他に新たにスポーツセンター職員、各区スポーツ推進委員等、今後の障害者スポーツを推進する上で重要な役割を担う対象者に絞り込んで募集し実施しました。

- ・一般：平成30年11月10日・11日・23日 受講修了者 14名
- ・専門職：平成31年1月12日～14日 受講修了者 19名



(2) 川崎市障がい者スポーツ指導者協議会

平成14年に発足し、現在約200名の会員がいる。初級障害者スポーツ指導員養成講習会受講者が会員として登録し、川崎市内で開催する障害者スポーツ大会やイベントなどの運営を担っています。また、会員のニーズに基づいたスポーツ講習会を開催し、スキルアップにも取り組んでいます。

7 障害者スポーツの普及に向けた新たな取組

ボッチャは、障害者スポーツを理解・体験する第一歩として最適なスポーツであり、障害者スポーツの更なる機会の拡充と理解の促進を図るため、障害のあるなしに関わらず、子どもから高齢者まで混ざり合って楽しめる「ボッチャ」を普及していきます。

(1) ボッチャ普及に向けた取組

様々な場所での体験会の実施や施設等と連携を進め、ボッチャを普及します。



- ・市役所内での普及・・・職員向け「ボッチャ体験」の実施
- ・障害者福祉施設等との連携・・・施設内での大会や体験会への協力など
- ・子どもから高齢者までの普及・・・こども文化センター等での普及など
- ・民間企業等との連携・・・NECや東京ガスとの連携など

(2) 市内で開催する大会

「かながわボッチャ2019」：令和元年10月27日(日)、会場：カルッツかわさきを皮切りに、川崎市身体障害者ボッチャ大会など障害のある無しに関わらず、子どもから高齢者まで参加できる「ボッチャ大会」を開催します。